

東神楽町におじゃましました！

今回、上川総合振興局からは、東神楽町で行っている取組をご紹介します。

◆「花のまち」と呼ばれるまで

東神楽町では古くから花を活用したまちづくりを行っています。「いかにして住み良い町をつくるか。」という考えの基、昭和33年から空き地に花を植える等の運動が積極的に始まり昭和42年には「美しい町づくり全国コンクール」において町内の婦人会が優良地区賞を受賞、さらに、昭和44年には「花のある職場コンクール」において役場職員互助会が「内閣総理大臣賞」を受賞。他にも数々のコンクール等で受賞し、「花のまち」として名が知られるようになりました。

近年は中央市街地を中心とした町の景観形成・整備や、学校教育にも花を取り入れるなど、より一層「花のまち」としての活動を推進しています。



公園内には小さな花壇がたくさんありました

◆町を挙げて推進！花がいっぱいみんなも笑顔

町は、公民館・公園・学校等の公共施設に花壇を整備し、役場付近の交差点に設置している花壇は、町民ボランティアが花を定植するなど、まさに町と住民が一体となって「花のまち」づくりに取り組んでいます。

また、役場庁舎の立体花壇は、毎年、地元の小学生がデザインを考えており、訪れる人の目を楽しませています。

他にも町内の希望者に鉢を無償配布し、各家庭の玄関前を花で飾ってもらう取組を町が支援しており、住民からの評判も良く、これらの町を挙げた活動が「花のまち」としてのイメージアップに貢献しているのです。



地元小学生のデザイン、力作です！

◆花の育成は我々にお任せ！縁の下の力持ち！

では公共施設に植える花はどこから来ているのでしょうか？実は町が育苗センターを運営していて、影で花のまちづくりを支えているのです。今回は作業中にもかかわらず快く取材に対応していただきました。

育苗センターでは年間約 12 万本の花の苗を育てており、町内の公園や公共施設に提供されています。

丁度、取材したときにパートの「お姉様方」が作業をしていたのでこっそりと撮影させていただきました。



お姉様の可憐な手で 1 粒ずつ丁寧に種を植えます

取材を行った7月の段階では播種作業（主にパンジーとビオラ）が中心となり、秋にハウス内定植、そのまま越冬させ、翌春、苗を配布します。



お姉様のお顔拝見。はい、チーズ！

苗を配布する4月頃になると、育苗を行っている9棟のハウスが花でいっぱいになるそうです。町の風景として華やかに咲いている花も、裏ではこうした丁寧な作業があって初めて表舞台に立てるのですね。



春のハウス内は花満開！！

◆取材を終えて

これまでの産地取材では花き生産組合を中心として取り上げられていました。では他に町や地域ではどういう取組をやっているか？そういった疑問から取材を行い、今回のご紹介となりました。

急な連絡にもかかわらず取材を受けていただいた東神楽町役場をはじめとする関係機関の方々にはこの場を借りてお礼申し上げますとともに、町を挙げて取り組んでいる東神楽町の街並みを是非一度、皆様も御覧になってはいかかですか？



東神楽町は交差点にもこんな立派な花壇が！

●東神楽町では、今年6月に「フラワーフェスタ」、8月に「花まつり」と「花のまち」ならではのイベントを今年も開催しました。詳細が知りたい方はこちらへ！ →<http://www.town.higashikagura.lg.jp/30event/2012event.html>

(平成24年7月取材 上川総合振興局農務課)